評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670101908
法人名	財団法人　慈愛会
事業所名	グループホーム　愛と結の街
訪問調査日	平成　20　年　7　月　4　日
評価確定日	平成　20　年　8　月　23　日
評価機関名	特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等　＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族　＝家族に限定しています。

運営者　＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム　＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年 7月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	4670101908
法人名	財団法人　慈愛会
事業所名	グループホーム　愛と結の街
所在地	鹿児島県鹿児島市小原町9-28 (電　話) 099-267-0533

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年7月4日	評価確定日	平成20年8月23日

【情報提供票より】(20年5月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成　12年　4月　1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	16　人	常勤　15人, 非常勤　1 人, 常勤換算　15.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽　量　鉄　骨　造り
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	31,500　円		その他の経費 (月額)	15,000　円　管理費
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	ー　円
	または1日当たり　1,300　円			

(4) 利用者の概要 (5月　13日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5　名	要介護2	9　名		
要介護3	4　名	要介護4	0　名		
要介護5	0　名	要支援2	0　名		
年齢　平均	86 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村病院分院　谷山病院　福原歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市小原町の住宅街に、財団法人慈愛会は「愛と結の街」という介護保健関連施設が集まった街を作り上げている。グループホームもその中にあり、職員はその街の中で育てられ、利用者に安心して暮らしていただける街を作り上げている。職員は、利用者が安心して生活でき・本人が実施可能な介護計画のケアを、それぞれがスキルアップしながら責任を持って支援をしている。利用者が、一人ひとりの生活の力を発揮して、楽しく生活しているのが、伺える。また、利用者の家族の方々のまとまりのあるグループホームである。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4)

昨年の外部評価で要改善に上げられた地域密着型サービスとしての理念づくりを、職員全員で、2～3ヶ月かけ、「ゆったり楽しい暮らしを目指し、共にはぐくむ　愛の街」「その人らしい　安心と安全な暮らしを　地域と共に創る結の街」と、つくりあげている。

今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)

今回の自己評価は、職員に項目を分けて評価してもらい、最後に管理者がまとめて作り上げている。その人らしい暮らしを続けるための日々の支援については、職員全員がそれぞれ評価して、ケアの向上に役立ててもらいたい。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)

民生委員・町内会長・地域包括支援センター職員・家族代表等の参加をもらい、二ヶ月に1回、定期的に開催されている。地域の方々の参加の防火訓練の実施の話し合いがなされ、実施された。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)

家族会時、家族だけで話し合う場面つくりをしている。家族からの意見・要望は、連絡ノートに記載して、職員は共有している。家族会の会議録を欠席の家族にも見ていただき、家族間の共有に役立てていただきたい。

重点項目④

日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)

町内会に加入し、女性学級に利用者が参加している。地域の方々をホームに招いて、認知症を知っていただく努力をしている。小学校・幼稚園の運動会などに参加したり、小学生・幼稚園児のボランティアを受けたりと、交流している。地域の方々の参加の防火訓練の実施の話し合いがなされ、実施された。

2．評　価　結　果(詳細)

（ ▨ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価で要改善に上げられ、職員全員で、2～3ヶ月かけ、「ゆったり楽しい暮らしを目指し、共にはぐくむ　愛の街」「その人らしい　安心と安全な暮らしを地域と共に創る結の街」と、理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝朝礼時に、唱和している。散歩に出かけたときなど、地域の方々に、挨拶･声かけに心がけ、理念の実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、女性学級に利用者が参加している。地域の方々をホームに招いて、認知症を知っていただく努力をしている。小学校･幼稚園の運動会などに参加したり、小学生･幼稚園児のボランティアを受けたりと、交流している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価で要改善に上げられた、地域密着型サービスとしての理念について何回も全職員で話しあい、作り上げた。今回の自己評価は、職員に項目を分けて評価してもらい、最後に管理者がまとめて作り上げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員･町内会長･地域包括支援センター職員･家族代表等の参加をもらい、2ヶ月に1回、定期的に開催されている。地域の方々の参加の防火訓練の実施の話し合いがなされ、実施された。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に、毎回参加してもらっている。運営に生じる課題を担当職員と一緒に話し合って解決している。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回の家族会のとき、利用者の暮らしぶりをパワーポイントで報告している。金銭を預かっている利用者の家族へは、3ヶ月毎のカンファレンス時に金銭出納帳にサインをもらっている。利用者の担当職員が、個々にあわせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会時、家族だけで話し合う場面つくりをしている。家族からの意見・要望は、連絡ノートに記載して、職員は共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、同法人の老人保健施設からが多く、法人内での行事などで行き来して、利用者と顔見知りになっている。職員は、異動前にオリエンテーションを受け、業務をしながら内容を覚えている。夜勤は1ヵ月後から業務している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には一年間担当の指導員が付き指導している。法人内で内部研修計画ができている。外部研修への参加も多く、職員の技術を高めようという気持ちも大きい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加している。職員も勉強会などには参加しているが、一方的であり、交流するまでに至ってない。職員の交流の話しは持ち上がっている。	○	地域のグループホーム間で、職員の相互訪問・勉強会などの交流をもち、サービスの質の向上に取り組むことを期待します。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族が、見学に来られたとき、半日ほどグループホームで過ごしてもらっている。入所してから部屋担当の職員を決め、担当者が、密接に対応して徐々に馴染みの関係を作り上げている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	週に1回、野菜を仕入れ、利用者が職員と一緒に袋詰め・販売・集計と得意分野の力を発揮してもらっている。若い職員は、利用者から調理方法を教えてもらいながら一緒に料理を作っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と担当職員が密接に対応しているので、利用者の会話などから希望・意向を把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のケアカンファレンスには、本人・家族に参加してもらい、安心して生活でき・本人が実施可能な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の支援に沿ったチェックは、毎日行い、3ヶ月ごとに利用者の担当職員と計画担当者がモニタリングを行っている。状態変化や追加項目が増えた場合は、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人内の老健の看護師により、医療処置を受けながら生活の支援をしている。家族の要望があれば、通院の送迎をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、愛と結の街施設長を兼務する同法人の病院の認知症専門医師が家族の納得の上、診療を行っている。他の眼科・歯科などは、家族の希望に添って受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に「見取り看護の考え方」という、事業者側の指針を伝えている。重度化したときは、家族と主治医を交えて話し合っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護について、研修会・ミーティングで取り上げ、徹底が図られている。個人記録などは、職員のみ入室できる部屋で管理されている。職員は、利用者にプライバシーを損ねるような声かけはしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、時間を決めておらず、利用者のペースで起床している。本人の実施可能な介護計画が作られ、職員は、本人のペースを大切に支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を利用者のそれぞれの力を発揮して、利用者が自信を持ってテキパキと動いている。食事中も職員と会話しながら、楽しい時間が流れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を予定しているが、毎日入りたい方も支援できる体制はできている。入浴を拒否される方は、家族の協力をもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週1回の野菜販売で、利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割をしている。毎月職員と一緒に各ユニットの壁飾りを作り、作品を年1回地域の方々に見てもらえる機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、職員と一緒に散歩に出かけている。利用者は、買い物・女性学級に交代で参加している。季節ごとに家族も参加して、外出レクレーションに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者を理解し、行動予測ができる職員のスキルアップに努め、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を地域の方々の参加を促し実施している。夜間想定・地震想定の避難誘導は、行われていない。	○	全職員が、どんな想定でも自信をもって非難誘導できるように、グループホームでの自主訓練の実施を期待します。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400Kcal　水分1500CC以上は、摂るようにしている。栄養バランスは、同法人の栄養士にみてもらっている。疾病によっては、水分チェックをしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は、窓からたくさんの日光が入り明るく、壁には利用者と職員が一緒に作った季節を感じさせる壁掛けが飾られている。廊下には、所々にベンチが置いてあり、利用者同士の語らいの場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には暖簾やトールペイントで作った表札が、掛けられている。居室には、利用者がそれぞれ使い慣れた家具・仏壇が置かれ、昔を懐かしむ家族の写真・孫・ひ孫の写真が飾られたりと、利用者一人ひとりの個性のある部屋作りができている。		